

分野名	看護の統合と実践	科目名	看護管理
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	変化する医療現場の中で看護職に求められる役割を理解し、多職種と連携・協働したチーム医療を推進し、質の高い看護を提供するために必要なマネジメントの基礎的知識を身につける。		
目標	1. 組織や看護のマネジメントについて述べる。 2. 看護ケアマネジメントとチーム医療の中の看護職の機能・役割について述べる。 3. 看護専門職として成長するためのキャリア形成について述べる。 4. 看護サービスマネジメントの対象とそのしくみについて述べる。 5. 組織における構造や原則を整理し、マネジメントとの関連について述べる。 6. 看護制度と政策、経済が看護に及ぼすしくみについて述べる。		
成績評価の方法と基準	客観的試験(80%)、出席率/演習やグループワークの姿勢(20%)		
使用テキスト・教材	系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院		
履修にあたっての留意点	授業に関する質問などは講義日に対応。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	学習ガイダンス 看護とマネジメント(看護管理学とは、看護におけるマネジメント)	講義	兼任講師
2.	看護ケアのマネジメント(看護ケアのマネジメントと看護職の機能、患者の権利の尊重、安全管理、、チーム医療)	講義	兼任講師
3.	看護ケアのマネジメント(看護業務の実践)、看護サービスのマネジメント(看護サービスのマネジメントの対象と範囲など)	講義	兼任講師
4.	看護職のキャリアマネジメント、看護サービスのマネジメント(人材のマネジメント)、グループ別課題研究の進め方	講義演習	兼任講師
5.	マネジメントに必要な知識と技術、看護を取り巻く諸制度	講義	兼任講師
6.	グループ別課題研究準備	グループワーク	兼任講師
7.	課題研究発表会	全体討議講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	国際看護
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	3	開講期間	前期
担当教員	専任講師*、兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	国際社会において、世界の健康問題について理解し、広い視野で諸外国と協力した看護活動を実施するために必要な基礎的知識を身につける。		
目標	1. 国際看護の定義と看護の対象について述べる。 2. グローバルヘルスと世界の保健医療における諸問題について述べる。 3. 国際協力の仕組みと看護について述べる。 4. 文化を考慮した看護について述べる。 5. 実際に行われている国際看護活動について述べる。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院		
履修にあたっての留意点	国際看護というカテゴリーであるが、その基本には貧困や紛争、ジェンダーといった国際保健の視点がなければ理解が及ばないので、公衆衛生・母性看護学・小児看護学で学んだ保健に関する知識を復習してから講義に臨むこと。また、日本に滞在する外国人への医療提供は特別なことではないことを理解するとともに、異文化理解という視点での配慮が理解できるように、文化的背景について各自が調べること。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	国際看護の定義 国際協力のしくみ	講義	専任講師*
2.	文化を考慮した看護 在留外国人への看護の実践	講義	専任講師*
3.	グローバルヘルス 人間の安全保障	講義	専任講師*
4.	開発協力と看護・母子の健康(ジェンダー)・感染症	講義	専任講師*
5.	国際看護の実際(日本に住んでいる外国の方の生活状況)	講義	専任講師*
6.	国際看護の実際(海外での活動の実際)①	講義	専任講師*
7.	国際看護の実際(海外での活動の実際)②	講義	兼任講師*
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	医療安全
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	専任講師*、兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	感染管理を含め、安全な看護活動を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.医療安全の基本的な考え方について述べる。 2.国や組織の医療安全対策について述べる。 3.看護業務に関連する事故と安全対策について述べる。 4.医療安全とコミュニケーションについて述べる。 5.組織的な感染管理における看護師の役割と協働の重要性について述べる。 6.安全を守る感染予防技術を実施する。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験:100%		
使用テキスト・教材	教科書 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②「医療安全」メディカ出版		
履修にあたっての留意点	・予習復習を確実に行う。 ・課題については積極的に取り組む。 ・演習時は身だしなみを整え、私語は慎み、技術向上にむけて真剣に取り組む。 ・グループワークは、メンバーの一員であることを自覚し、主体的に参加する。 ・提出物については、内容をよく確認し、提出期限内に提出する。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	医療安全を学ぶ意義・事故防止の考え方	講義	専任講師*
2.	組織的な安全管理体制への取り組みと国の医療安全対策、医療機関の医療安全対策	講義	専任講師*
3.	療養上の世話における事故と安全対策	講義・DVD	専任講師*
4.	療養上の世話における事故と安全対策	講義・DVD	専任講師*
5.	療養上の世話における事故と安全対策	講義	専任講師*
6.	療養上の世話における事故と安全対策	講義	専任講師*
7.	組織的感染管理	講義	兼任講師*
8.	組織的感染管理	講義	兼任講師*
9.	組織的感染管理(演習)	演習	兼任講師*
10.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師*
11.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師*
12.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師*
13.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師*
14.	医療安全とコミュニケーション	講義	専任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	災害看護
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員口		
目的	諸外国を含め、災害発生直後から支援できる看護活動を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.災害看護の歴史や関連する知識を述べる。 2.被災者や他職種と協働し、災害発生直後から継続的に介入が必要な看護について述べる。 3.被災者や他職種と協働し、災害発生直後を想定した看護活動が実施できる。 4.海外で発生した災害に関連した国際協力について述べる。 5.看護師として必要な態度を表現する。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	・系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院 ・小井土雄一他:多職種連携で支える災害医療 医学書院 ・國井修:災害時の公衆衛生・私たちにできること 南山堂 ・厚生労働省:日本DMAT活動要領,2010.03.31改正 他		
履修にあたっての留意点	臨地実習に直接必要な知識ではないが、看護師として患者の安全を守る立場になる上で必須の知識及び技術であるため、特にシミュレーションや訓練は真剣に取り組んでください。 過去の被災体験などを想起するといった状況がある場合は、必ず講師に報告してください。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	災害とは、災害の歩み、基礎知識、特徴	講義	兼任講師*
2.	マスギャザリング、災害と情報、職種間連携	講義	兼任講師*
3.	災害看護と法律、課題と対策、災害看護の定義と役割	講義	兼任講師*
4.	対象、特徴と活動、看護に必要な情報、アセスメント、ジレンマ	講義	兼任講師*
5.	急性期・亜急性期	講義	兼任講師*
6.	慢性期、復興期、静穏期	講義	兼任講師*
7.	子供、妊婦、高齢者、障害者、精神疾患、慢性疾患	講義	兼任講師*
8.	原子力、外人、心のケア、救済者の心のケア	講義	兼任講師*
9.	展開 実際の経過を継時的に講義 災害直後～急性期、亜急性期の実際	講義	兼任講師*
10.	慢性期の実際、避難所生活	講義	兼任講師*
11.	国際看護学	講義	兼任講師*
12.	包帯法など、固定	演習	兼任講師*
13.	体育館使用の演習	演習	兼任講師*
14.	体育館使用の演習	演習	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	看護研究の基礎 I
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	専任講師* *実務経験のある教員		
目的	看護の質向上に必要な研究の基礎知識を身につける。		
目標	1. 看護職者として看護研究に取り組み意味や方法を述べる。 2. 看護研究の過程に必要な知識を述べる。 3. 事例研究(ケーススタディ)の方法について述べる。 4. 研究に取り組む際の倫理的配慮について述べる。 5. 看護実践の中から関心ある事象を抽出し、記述できる。 6. 看護研究のテーマの選定に向けて、必要な文献を検索し、自己の力で読んで要約する。 7. 看護研究の発表方法を述べる。		
成績評価の方法と基準	①看護研究学会の口演の視聴、発表内容の要点聴き取り、質問文作成 10% ②看護研究テーマ(課題)決定シート 15% ③文献カード 15% ④客観試験 60%		
使用テキスト・教材	【教科書】松本孚、森田夏実編:わかりやすいケーススタディの進め方、照林社、2025. 【参考図書】南裕子:看護における研究、日本看護協会出版会、2008. 古橋洋子:看護研究ビギナーズNOTE, Gakken、2011. 小笠原知枝・松本光子編:これからの看護研究—基礎と応用、ヌーヴェルヒロカワ、2012. ほか		
履修にあたっての留意点	・当科目では、ケーススタディへの取り組みを通じて、学生個々が臨地実習で経験した看護の内容とその成果について振り返り分析します。 ・ケーススタディへの取り組みに必要な文献の検索、文献カードの作成を行います。研究テーマに関連する文献から、自分の知識を広げてください。 ・研究プロセスの理解を深めるために、オンデマンドの看護学会(又は模擬発表会)の口演を視聴します。 ・対面授業ができない場合や、臨地実習に行かない場合には、学習方法や課題を変更することがあります。 - それに伴い、成績評価の方法と基準を修正する場合があります。 ・提出物について、他者と同じ内容のものを提出した場合は、自力で取り組んだとは見なしません。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	1. 研究とは何か 2. 看護研究の必要性 3. 看護実践を向上させる研究 4. 研究過程の概観	講義	専任講師*
2.	5. 研究の種類(デザイン)と特徴 6. 事例研究(定義、意義、限界と考慮点、計画と実施)	講義	専任講師*
3.	7. 事例研究報告書(論文)の書き方 8. 整形外科患者の事例研究の抄読	講義	専任講師*
4.	9. 口頭発表の方法 10. 研究における倫理 11. 看護研究のクリティーク 12. 看護学会の口演の視聴	講義	専任講師*
5.	13. 看護研究テーマの具体例 14. 文献検討の方法 15. 研究テーマの選定(テーマ決定シートの作成)	講義個人ワーク	専任講師*
6.	16. 文献検索	個人ワーク	専任講師*
7.	17. 文献の抄読 18. 文献カードの作成	個人ワーク	専任講師*
8.	単位修得試験	筆記試験	専任講師*
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	看護研究の基礎Ⅱ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	3	開講期間	前期
担当教員	専任講師* *実務経験のある教員		
目的	事例研究の実際を通して自己の看護観を深める。		
目標	1.研究の過程を体験する。 2.臨地実習で実施した看護を振り返り、自分の言葉で看護を記述する。 3.千葉県看護学生研究発表会の聴講を通して他者の研究から看護について学ぶ。		
成績評価の方法と基準	レポート内容100%		
使用テキスト・教材	「わかりやすいケーススタディーの進め方」照林社		
履修にあたっての留意点	・期日内にレポートを仕上げ提出できるよう計画的にすすめる。 ・授業時間を有効に活用し、担当教員から個別指導を受ける。 ・文献検索・文献学習に継続的に取り組み看護実践の意味づけについて考察する。 ・論文作成は規定にそってまとめる。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	看護研究計画書の作成 文献検索	個人ワーク	専任講師*
2.	看護研究計画書の作成 文献検索・文献学習	個人ワーク	専任講師*
3.	論文作成	個別指導	専任講師*
4.	論文作成	個別指導	専任講師*
5.	論文作成	個別指導	専任講師*
6.	論文作成	個別指導	専任講師*
7.	論文作成	個別指導	専任講師*
8.	論文作成	個別指導	専任講師*
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	看護の統合と実践	科目名	総合演習
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	3	開講期間	通年
担当教員	専任講師*、兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	既習の臨地実習や学内授業で身につけた判断力や看護技術を活用し、多重課題の解決や、安全な看護の実施にむけて、知識・技術を統合し、臨床実践能力を発揮する。		
目標	1.臨床現場で活用する医療機器の安全な取り扱いについて述べる。 2.既習の知識・技術・態度を統合して、事例患者の状態に応じた安全・安楽な援助技術を提供できる。 3.多重課題の解決に向けて、根拠に基づいた判断について述べる。 4.事例患者のカンファレンスを通し、医療チームにおける多職種との連携に必要な看護師の役割について述べる。 5.自己の課題を述べる。		
成績評価の方法と基準	課題レポート70% 演習におけるチェックリスト・技術試験30%		
使用テキスト・教材	系統看護学講座 基礎看護学④「臨床看護総論」医学書院		
履修にあたっての留意点	・課題については、既習の知識や文献を活用し、積極的に取り組む。 ・演習時は身だしなみを整え、私語は慎み、事故が起こらないよう真剣に取り組む。 ・グループワークは、メンバーの一員であることを自覚し、積極的に参加する。 ・既習の援助技術については、ナースングスキルを活用し、事前・事後学習を行うこと。 ・課題レポート(事前課題や演習後の振り返りなど)については、内容を充分確認し提出期限内に提出する。 ・科目の学習が統合実習につながることを意識し学習に取り組む。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	医療機器の原理と実際①	講義	兼任講師*
2.	医療機器の原理と実際② 実際の医療機器を使用した演習	講義・演習	兼任講師*
3.	事例検討(安全管理)	DVD・グループワーク	専任講師*
4.	事例検討(安全管理)	DVD・グループワーク	専任講師*
5.	演習オリエンテーション① 事前学習・事例学習課題提示	講義	専任講師*
6.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師*
7.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師*
8.	演習オリエンテーション② 事前学習・事例学習課題	講義	専任講師*
9.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師*
10.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師*
11.	事例患者に必要な援助技術(技術試験)	演習	専任講師*
12.	事例患者に必要な援助技術(技術試験)	演習	専任講師*
13.	複数受け持ち演習	演習	専任講師*
14.	複数受け持ち演習	演習	専任講師*
15.	医療チームにおける多職種連携 まとめ	講義・グループワーク	専任講師*
16.			